

救急搬送記録を用いた転倒・転落記録状況の調査

発生場所および発生時期の検討

ヨシモト 吉本	ヨシノブ 好延 ^{*,2*}	ミキ 三木	フミエ 章江 ^{3*}	ハマオカ 浜岡	カツミ 克伺 [*]
オオヤマ 大山	ユキツナ 幸綱 [*]	サトウ 佐藤	アツシ 厚 ^{3*}		

目的 本研究の目的は、全国の消防本部の救急搬送記録を用いて、救急搬送を伴った転倒・転落状況について、性別・年齢層別に検討を行うことであった。

方法 調査期間は平成19年の1年間であった。対象は、全国の消防本部37機関の救急隊員により搬送が行われた転倒・転落31,002件（男性14,802件、女性16,200件）とした。調査項目は、受傷者の性別、年齢、転倒・転落の発生場所、発生月、発生季節、転倒・転落後の傷病程度の計6項目とした。

結果 人口1,000人当たりの転倒・転落搬送件数は、高齢層ほど高く、後期高齢者15.9件、前期高齢者6.3件、成人1.9件であった。転倒・転落搬送割合の最も高い場所は、全ての性別・年齢層で住宅であり、次いで、男性は道路以外の屋外、女性は公衆出入場所の順であった。転倒・転落搬送割合の最も高い季節は、男性の後期高齢者を除く全ての性別・年齢層で冬季であり、転倒・転落搬送割合の最も高い月は、男性の後期高齢者を除く全ての性別・年齢層で12月であった。転倒・転落後の傷病程度が重症以上の受傷者の転倒・転落搬送割合は、男女共に若年層より高齢層で高い傾向を認めており、女性の後期高齢者における重症以上の転倒・転落搬送割合は、女性の成人の2.8倍を認めた。

結論 救急搬送を伴った転倒・転落は、受傷者の性別や年齢層によって転倒・転落の発生原因に違いがあると推察された。

Key words : 救急搬送記録, 転倒・転落, 調査

* 厚生年金高知リハビリテーション病院リハビリテーション科

^{2*} 高知女子大学大学院健康生活科学研究科博士後期課程

^{3*} 高知女子大学生生活科学部健康栄養学科
連絡先：〒780-8040 高知県高知市神田317-12
厚生年金高知リハビリテーション病院リハビリテーション科 吉本好延